

情報社会学会 ネットワーク部会 平成 20 年度活動計画(案)

情報社会学を知性の組み上げのプロセスとして進めることは、研究活動の強力な実体と、社会の中にそれを確立していくための学会としての構造化が必要である。ネットワーク部会では、デジタル技術の基盤と、その上に形成されるネットワークを研究領域として取り扱う。

デジタル情報が流通する基盤は、すべての産業と人の生活に貢献する共通基盤であり、応用は自由で(=創造性)、かつコストが共有できる(=安い、支配されない)。同時に、ネットワーク自体のアーキテクチャが、集中処理型から分散処理型に移行し、低コストで情報共有や参加を促す形に変化している。散在していた力がネットワーク上で出会い、編集されることで新たな価値を生む。

テクノロジーと社会の境界領域の成果を評価し、またこうした現場の事例をアカデミックに評価し認知することが本部会の果たすべき役割である。その一環として、論文誌については、例えば次のような特徴ある論文を認知し、評価する。

- ・ 少数の技術の適用例について、対抗仮説をきちんと意識し分析した論文
- ・ 理論的な新規性のみならず、現実社会における deployment において、新規性のある顕著な成果をあげたシステムの記述と理論的な分析研究
- ・ 異質な原理をもつ下位システムを統合する学際的方法論

投稿・審査・発刊のプロセスにインターネットを活用し、オンデマンド出版という形を取ることで、認知するまでの時間を短縮することを試みる。

本部会は、(1)ワークショップ・研究会の開催、(2)分科会における研究活動を実施する予定である。

(1) ワorkshop・研究会の開催

情報社会学会誌(ジャーナル)に掲載できる論文を提出していくため、研究発表、議論の場を積極的に設けていく。

(2) 分科会における研究活動

(ア) インターリアリティ :土屋大洋、井庭崇、熊坂賢次

ネットワークのネットワークとしての「インターネット」の研究を超えて、そのネットワークの外側にある現実(リアリティ)をつなぐという意味の「インターリアリティ」という新しい概念を構築するための研究活動を行う。ボストンのマサチューセッツ工科大学で在外研究中の土屋と連携しながら、国際的なコラボレーションの可能性も模索する。

(ウ) プラットフォームデザイン:國領二郎、飯盛義徳、小川美香子、高橋明子、折田明子

情報プラットフォームの観点よりビジネス・社会モデルの構築のための研究活動を行う。具体的には、ID 技術の活用と情報開示システム、ヘルスケア、地域経済自律化、消費者同士の情報交換等を対象とし、定期的な研究会を開催する。

以上